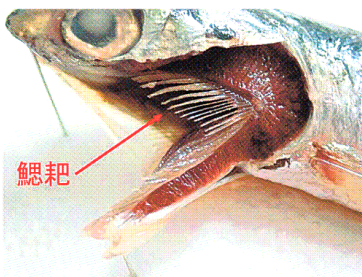


●上あごが大きいカタクチイワシ
⑥鰓耙(さいは)で動物プランクトンをこし取り食べる



大型の肉食魚類に食べられないよう、固まりをつくるカタクチイワシの群れ

カタクチイワシ

学名 *Engraulis japonicus*

分類 ニシン目カタクチイワシ科

大きさ 20cm

分布 北海道以南、朝鮮半島～南シナ海北部

食性 プランクトン

特徴 日本の各地沿岸海域に

生息する。大きな上あごは、下あごにかぶさるように伸びていて、口が片方しか無いように見えるためカタクチイワシ(片口鰯)という名前がつけられた。鹿児島では「タレクチ」とも呼ばれる。

生きるために群れになる

かごしま水族館には、目の前に広がる鹿児島湾の一部を利用して作ったイルカ水路があります。海とつながる水路では、飼育するハンドウイルカ以外にも、たくさんの生き物を見ることが出来ます。その一つが銀色に輝きながら泳ぐカタクチイワシの群れです。カタクチイワシは鹿児島湾では、まさかみ漁で一年中捕れ、カツオの一本

釣り漁に使う生き餌として、海上いけすで育てられます。かごしま水族館では、これを漁船で輸送して、館内最大の黒潮大水槽で展示しています。水槽では、口を大きく開けながら泳ぐ様子が見られます。これは餌を食べる時です。海水を飲み込み、えらにある

ろ過装置の「鰓耙」という器官で、海中の動物プランクトンをこし取って食べます。うろこがはがれやすく、弱い魚で、その多くが、カツオなどの大型肉食魚類や海鳥などに追われて食べられてしまう悲しい運命にあります。

カツオなどに追われると、群れが団子状となり、水面が盛り上がるほど凝縮します。群れにカツオが突っ込むと、いったん四方へ散らばりますが、しばらくすると元の固まりに戻ります。1匹でいるより群れの方が生き残る確率が高いという、生きるための知恵、本能による行動なのです。毎日懸命に生きるカタクチイワシを、水槽越しに見にきてください。

(展示課 海獣展示係・大瀬智尋)

おもしろ生き物図鑑
かごしま水族館から